

平成28年11月11日

◎弘田委員長 ただいまから、決算特別委員会を開会いたします。 (9時58分開会)

御報告いたします。高橋委員から所用のため本日の委員会を欠席したい旨の届け出が
あっております。

本日の委員会は、昨日に引き続き、平成27年度一般会計及び特別会計の決算審査につ
いてであります。

お諮りいたします。日程につきましては、お手元にお配りしてある日程案によりたい
と思っておりますが、御異議ございませんか。

(異議なし)

◎弘田委員長 御異議ないものと認めます。

《観光振興部》

◎弘田委員長 それでは、観光振興部について行います。

初めに、部長の総括説明を求めます。

なお、部長に対する質疑は各課長に対する質疑とあわせて行いたいと思
いますので、御了承願います。

(総括説明)

◎弘田委員長 続いて所管課の説明を求めます。

〈観光政策課〉

◎弘田委員長 最初に、観光政策課について行います。

(執行部の説明)

◎弘田委員長 質疑を行います。

◎依光委員 体験型観光商品調査委託料、これは留学生に体験型観光について調査を依頼
したということですが、具体的にはどういったプランをやられたのかを教えてください。

◎三浦観光政策課長 県内で体験型観光をやっているのが城西館だったので、委託先も城
西館なんですけれど、この中で、猿田洞とかの体験型観光をブラッシュアップした形で、
それからパンフレットを英語と韓国語と台湾、繁体字の3言語で作成し、それをセールス
活動に利用したところでございます。

◎依光委員 きノウ文化生活部の国際交流課とも議論をさせてもらって、国際交流協会も
あったり、留学生だけじゃなくて高知県に住んでいる方とか、外国人の方から見てどうか
という情報を入れていくことは非常に重要だと思います。特に若い子でしたら大学生もいる
わけで。観光振興部として、例えば国際交流協会とかとの、そういう接触はあったんでし
ょうか。

◎山崎おもてなし課長 おもてなし課の山崎でございます。先ほどの体験型観光商品の調
査委託につきましては、委員からお話がありましたように、外国人留学生だけではなく、

高知にいらっしゃる国際交流員とか、県内在住の外国人の方々にも御協力をいただきながら、地域のモニターツアーの実施とかその意見の反映、観光資源のブラッシュを行った上で、地域の方々と意見交換もしながら、着地型観光商品を造成しております。なお、27年度は津野町と安芸市で、それぞれの地域の観光資源、例えば津野町でしたら地域の古民家を活用したまき割り体験とか、外国人から見た意見をいただきながら着地型観光商品をつくっております。また安芸市につきましては、陶芸館を活用した陶芸教室とか、酒蔵体験なども着地型観光商品に組み込みながら商品を造成しております。

◎**依光委員** 非常に重要だと思いますので、観光振興部全体としても、外国人の声を聞くチャンスがあれば聞いてみていただきたい。日本人がつまらないものと思っても、実際は外国人はすごく興味があるということもあろうと思いますので、要請をさせていただきます。

◎**金岡委員** この「地域人づくり」ですが、ファイティングドッグス、南国高知フットボールクラブ、アイゴッソ高知とあるんですが、この金額の差はどういうことでできているんですか。

◎**三浦観光政策課長** これは雇用人数によるものでございます。

◎**金岡委員** 単純に人数で割ったということですか。

◎**三浦観光政策課長** 人数と期間によるものでございます。

◎**金岡委員** 今度、このサッカーのクラブは一つになっていますよね。今後はどうなるんですか。

◎**三浦観光政策課長** 地域人づくりサッカークラブ人材育成事業につきましては、国の交付金事業、緊急雇用の事業を活用して人材育成に取り組んだもので、雇用継続にもつながっているということで、この時点で、人材育成事業については一旦終了にさせてもらっています。

◎**米田委員** 138ページの観光客動向調査委託、四半期に1回ということで、年に4回やられているんですけど、毎年場所とか、何日とか日も決まっているんですか。

◎**三浦観光政策課長** 委託をした段階で、観光施設を中心に10地点を決めて、大体同じ所で毎年やっている状況です。

◎**米田委員** 日も決まっていますか。ゴールデンウィークとかそういう。

◎**三浦観光政策課長** 全体としては、ゴールデンウィークや秋口、シルバーウィークとかの多客期はできるだけ避けるようにしています。多いときはやはり来られる方が若干違っている場合がありますので、平準的などところで調査をするということで、四半期ごとにやっております。

◎**米田委員** できるだけそういう人が来てくれるいい日を調べて、動向、意思をどう成就させるかということで取り組みゆうわけよね。プロポーザルでクリケットというところへ

委託されているわけですけど、どんな提案が取り入れられてここになったのか。

◎三浦観光政策課長 今回、プロポーザルにしたんですけれども、説明会には3社来られて、実際にはクリケットだけしかなくて。ところが、クリケットについては、これまでもこの動向調査をやっておられましたので、もうノウハウもあるということで契約をさせていただいたと。提案については、四半期ごと、基本的に仕様書ベースで大体定めておりますので、そんなに変わった提案は出てこないんですけれども、そういった決められたところから、調査をどこでどういうタイミングでやるのかといった提案があるというところですよ。

◎米田委員 例えば去年度の動向調査の結果がもしまとまっておれば、一遍回してもらいたい、参考にさせていただきたいと思います。毎年やっていけば、来られる方々のニーズなり、どこから来たかとか、やっぱりすごく活用できると思うんですよ。ある意味、宝になるので、ぜひ公にもしていただいて、そういう活用がもっとできるようにしていただきたらなと思うんですけど。

◎三浦観光政策課長 もちろん動向調査ですので、30代から40代の方が1番多いとか、高知県は意外と女性よりも男性が多いとか、そういったデータもフル活用して対応するようにしております。

◎米田委員 最後、高知家プレミアム旅行券で何人ぐらいが利用されたのかということと、いわゆる地方創生で、地域経済活性化とかアベノミクスの波及を狙ったと思うんですが、経済効果はどんなふうに評価をされていますか。

◎三浦観光政策課長 実際の予算額が5億6,000万円だったのに対して、直接的な消費額の推計は27億4,000万円ですので、それだけを見てもかなりの経済効果はあったと考えております。利用者は、7万9,400枚売って、その中で約6万人の方が買われております。

◎横山委員 観光情報交換会等実施委託料、首都圏での情報発信ということですけども、内容と成果を教えてください。

◎三浦観光政策課長 内容については、首都圏のほうで、首都圏に多く集まっているマスメディアの方を集めて、特に高知県の特出しをできるような内容、そういった情報を発信する会を設けるのが1点です。それからメディアに対してリリースするためには、やはりメディアが食いつく内容で出さなければなかなか食いついてくれないので、この委託先にはそういったいろんな支援、指導をいただいて、全国のメディアに発信をする仕組みがございますので、その中で全部発信をしていくというところがございます。

成果といたしましては、始めたのが平成24年ですけども、平成24年で広告換算費で13.6億円だったのが、順に上がって、25年度だと26.8億円、26年度だと29.6億円、27年度には55.6億円と出ておりますので、かなり効果は高いと考えております。

◎桑名委員 高知家の食卓県民総選挙の所管はここですかね。

◎三浦観光政策課長 はい、そうです。

◎桑名委員 その予算はどこに入っているんですか。

◎三浦観光政策課長 高知家の食卓県民総選挙については、平成27年度は実施しておりません。年に1回ずつやっておりますが、27年度はたまたま実施してない年度になります。

◎桑名委員 28年、今年度はやっていますよね。

◎三浦観光政策課長 今年度はやっています。

◎桑名委員 27年度にやらなかった理由は。

◎三浦観光政策課長 27年は、26年度に、27年の1月から2月にかけて実施をいたしておりますので。

◎桑名委員 ずれてくるのか。

◎三浦観光政策課長 はい。

◎桑名委員 わかりました。そしたら決算とは違いますけども、28年度、この間実施しましたけども、これは1回につき大体どれぐらいの予算がかかっていますか。

◎三浦観光政策課長 28年度ですか。

◎桑名委員 ええ、今年度。ざっくりでもいいんですけど。

◎三浦観光政策課長 ざっくりで言えば、およそ1,000万円です。

◎桑名委員 この事業自体についてですけども、自分の考えとしては、そもそも行政が民のお店の格付をするのはいかなものかというところがあります。ただこれも回数を重ねて、それぞれ話題性があったり、選に漏れたところからのクレームもないと思うんですけども。ただ28年度、今回を見ても、どこもすばらしい店が選ばれていますが、高知の食材と関係ないようなところも入っていますよね。今後こういった事業を続けたときに、もし大手ファミリーレストランとか大手チェーンがどかんと入ってきたときに、それを載せてしまったら、この食の総選挙自体が何かおかしな方向に走っていくのではないかなど。今回を見ても全然、何十種類の中の1品だけ高知の商品があるものもあったりとか、別に高知の食材じゃなくても、ただおいしければ出ているところもあるし、まして韓国の料理屋さんが1位になっているし。それが県がお金を使ってやるべきものなのかなという考えがあるんですが、議論はされてないですか。

◎三浦観光政策課長 そのことについては議論はいたしました。高知県の食材を使ったものに限定するかという意見もございました。しかも、チェーン店だとどうなのかということもあったんですけども、そのチェーン店を県内で経営している方は県内の経営者なので、その部分をはじくのはいかなものかということで、やむを得ず今の段階では入れた状態で投票を行っているところでございます。

◎桑名委員 これも続けていくと思うんですが、どこかで考え方を変えないと。今のところは県内のチェーン店とかが入っていますけども、例えば大手すし店が入ってきて、一気

に上がってきたときなんか、もうどうしようもなくなると言うんですけどね。高知の食材を中心としたお店で、皆さん方が県外の人にお勧めできる店はどこですかという聞き方だと、もうちょっと違ってくるとは言うんですけども。

◎三浦観光政策課長 もう、おっしゃられるとおりでと思いますので、今後またさらに検討を深めてまいりたいと思います。

◎桑名委員 結果が出た後にドタバタするよりは、その前にどういう問い方をするかが大事だと思いますので、もう1回検討していただければと思います。

◎西森副委員長 先ほどもちょっと出ていましたが、観光客の動向調査の事業はずっとやっていると思うんですけども、これがその後の事業にどう生かされているのかお伺いできればと思います。

◎三浦観光政策課長 例えば、来年行われる志国高知幕末維新博もそうなんですけれども、例えば高知県の強み、観光客が何を目的にして来られているかという、実は史跡関係が1番多かったり、次に観光の一般的な施設があって、その次が食という形態になっています。食ということでは、意外と年代別では割と若い方が来れるというところも含めて、食はやっぱり全体を通じて強いというところで、リョーマの休日キャンペーン、高知家の食卓とかで食を生かしてきましたし、時代の流れに沿って、今度は歴史系ではないかと。強みを分析して、そういったところでも生かしているところがございます。一つの例でございますが。

◎西森副委員長 ずっとやってきて、傾向に変化が出ているのかとか、そのあたりはどう分析をされておるのか。

◎三浦観光政策課長 全体の傾向としては、ほぼ変わりはありません。ただ、宿泊日数の伸び率とかもあわせて調べておりますので、できるだけ宿泊日数を伸ばすには、どういう取り組みを進めればいいのかの検討材料としては、必要と考えているところがございます。

◎西森副委員長 資料を出していただけたということでしたので、よろしくお願いします。

◎三浦観光政策課長 観光動態調査につきましては、観光政策課のホームページにも出しております。紙ベースでお配りするとちょっと分厚いですが、概要版も、両方お渡しするようにいたします。

◎弘田委員長 概要版があれば皆さんに回していただいて、後は我々、ホームページで見るといことで。概要版だけで構いません。

質疑を終わります。

以上で、観光政策課を終わります。

〈地域観光課〉

◎弘田委員長 次に、地域観光課について行います。

(執行部の説明)

◎弘田委員長 質疑を行います。

◎米田委員 139ページの地域観光商品造成等委託料、狙いは非常に大事な事業だと思うんですけど、現場指導や講座をされているということで、参加者数と、この事業によってどういう成果を上げることができたかを。

◎小西地域観光課長 土佐の観光創生塾につきまして、昨年度は中央・東部エリアと西部エリアの2エリアに分けて開催をしております。参加者につきましては、中央・東部エリアが29名、西部エリアが31名、合計60名が受講をさせていただいております。

主な成果につきましては、例えば西部地域で言いますと、海から見る足摺岬という形で、足摺岬のクルーズなどが磨き上げをされ、商品化された事例もございます。東のほうでは、伊尾木洞が新たにガイドをつけてということで磨き上げを行い、旅行会社に提案をした事例がございます。

◎米田委員 足摺の海から眺めるとか、浦戸湾でもそういうことをしたいという声もあるわけですから、非常におもしろい取り組み、磨き上げだと思うんですけど、参加者数は、大体県が考えていた人数になっているのかということと、参加した人の感想ですよ、特徴的なのがあれば。

◎小西地域観光課長 参加者数につきましては、私どもが想定していた人数が参加をさせていただいたと考えています。

参加者の皆様の意見としましては、地元の観光素材を商品にしていくのは、やはり経験もない中で1人ではなかなか難しいということで、こういった形でまずはマーケットの動向を受講したり、自分たちの所の魅力を再発見し、どうPRしていくかという部分を、旅行会社などの専門家の方にも応援をいただきながらやっていくことで、非常に参考になるというお声をいただいております。

◎米田委員 専門家が来てくれて、現場で対応してくれるのはうれしい、非常に役立つと思うんですけど、どんな頻度で要請したらそこへ来てくれて一緒に考えたりしてくれる、そういう体制の事業になっていますか。

◎小西地域観光課長 頻度について、昨年度の実績で言いますと、地域コーディネーターが受講者の方を個別にフォローした回数ですけど、2地域で延べ130回行っております。それぞれの受講者が商品化したい素材が少しずつ違いますので、座学のほかに、コーディネーターが直接受講者の方を訪問させていただいて、意見交換したりアドバイスをしたりということを行っております。

◎米田委員 大事な取り組みだと思うんですけど、それを成就させようとしたときに、行政の支援をもっととか、参加した人からいろいろ意見も出ているかと思いますが、どんなですか。

◎小西地域観光課長 ことしも引き続き、土佐の観光創生塾を実施しております。昨年度は旅行商品にしていくのが一つ大きな目標でしたが、本年度については、旅行商品とともに周辺の施設もしくは素材と一緒に、観光クラスターという言い方をしていますが、事業者間の連携も視野に入れて取り組んでいこうとしております。受講者の皆様には、商品をつくる、プラスアルファで周りの方々と連携をしていく取り組みも有意義だと、評価をいただいているところでございます。

◎横山委員 その土佐の観光創生塾ですが、組織と地域の事業者が一体となってということですが、受講されている人はやっぱり観光協会の職員とか、地元の自治体の職員とかですか。事業者はどれぐらいその創生塾に参加されているんですか。

◎小西地域観光課長 おっしゃるとおり、受講者は観光関係者になっておりまして、市町村の観光協会の職員の方とかもおりますし、地域おこし協力隊の方とか、事業者の方ではホテル等を経営されている方なんかも入っている状況です。

◎横山委員 観光クラスターをつくり上げていくときに、事業者の参加は恐らく不可欠になってくるんじゃないかなと思います。観光分野の特性上、やっぱり組織、地元の観光協会の人、若い人が結構多い。若いことに対する何かじゃなくて、その地域を巻き込んでいくときに、結局自分たちの年代だけとかにならないように、自分たちの地域を俯瞰的に見るような思考が求められてくるんじゃないかと思うんですよ。事業者を巻き込んでいくことも取り入れながら、そういうスクールにしていきたいなと思っております。要請でございます。

◎金岡委員 同じく地域観光商品造成等についてですが、きのうもクァンタム・オブ・ザ・シーズが来てまして、かなりの観光バスが来て、サービスエリアの駐車場もいっぱいでしたが、クルーズ船の対応、検討がどうなされてきておるのかお伺いしたいと思います。

◎小西地域観光課長 クルーズ船につきましては、昨年度、土佐の観光創生塾の中で直接的には取り扱った事例はないんですが、オプションツアーで県内の各エリアに周遊していただけるよう、我々も地域の素材を旅行会社、船会社に提案する取り組みはしております。ちなみに、本年度も室戸のジオパークに向けて、オプションツアーが出たりといった事例も見えてきておるところでございます。

◎金岡委員 半日観光ぐらいになるんでしょうかね。観光客が十分満足できるような素材がそれぞれの地域にあると思いますので、クルーズ船の観光客を周辺地域へ導くように、広域観光組織と地域の事業者で、ぜひとも検討していただきたいと思います。

◎小西地域観光課長 委員のおっしゃるとおり、クルーズ船のお客様に地域を周遊していただくことが、一番大きなポイントだと思いますので、引き続き観光素材の提案をしていきたいと思っております。

◎弘田委員長 質疑を終わります。

以上で、地域観光課を終わります。

〈おもてなし課〉

◎弘田委員長 次に、おもてなし課について行います。

(執行部の説明)

◎弘田委員長 質疑を行います。

◎横山委員 おもてなしトイレ、これはすばらしい事業だと思うんですけども、この満足度をはかったりはしていますか。

◎山崎おもてなし課長 おもてなしトイレにつきましては、認定の時点で要件がございますが、認定された後も、おもてなしの維持向上に努めてらっしゃるかを再チェックして、品質の維持に努めております。

◎横山委員 他県の人に来て、おもてなしトイレに対する評判とか、そこまではわかりませんか。

◎山崎おもてなし課長 今、具体的にはちょっと手元に資料はございません。

◎横山委員 観光ガイドの育成について、ここに載っている10団体、295名は全部ではないんでしょうけれども、観光客が伸びるにつれて、やはりガイドの数はふやしていかないとと思いますが、その状況はどうですか。

◎山崎おもてなし課長 おっしゃるとおり、これから来年の維新博に向けまして、地域地域の観光資源、施設を、丁寧にガイドしていただく方の育成が必要だと考えております。私どものガイド研修で人材育成を行いますとともに、各地域のクラスターの補助金の中で、現在、地域のガイドの養成に取り組んでおるところでございます。

◎横山委員 ガイドの数は着実に育っている状況ですか。

◎山崎おもてなし課長 現時点で、どれだけの人数が育成されているかは把握できておりませんが、今後、各地域のクラスター事業の補助金の実績も踏まえて、人数は把握していきたいと考えております。

◎米田委員 おもてなしトイレはホテルなども含めてやっていると思うんですけども、以前、大手のホテルでも、バリアフリーを含めて、おもてなしトイレに匹敵するようなトイレの改修がおくれていると報道されたことがあるんですが、実情はどうかということと、地域の公共的な施設、またそういうホテルのトイレの改修とかについても、どこか補助はあるわけですね。その二つ。

◎山崎おもてなし課長 県内宿泊施設、ホテル等につきましては、国全体で訪日外国人観光客の受入環境整備を進めており、四国運輸局が持っております補助金なども活用することは可能でございます。

◎米田委員 活用することは可能やけど、それを使ってホテル等で改修、改造しているところは、現にあるわけですかね。

◎山崎おもてなし課長 現時点で、運輸局の活用事業につきましては、詳細を把握しておりませんが、今後さらに受入環境整備を加速化していくためには、県内の宿泊施設、旅館、ホテル等にも補助金の活用などを促していきたいと考えております。

◎米田委員 確かにね、トイレがよかったから行こうとはならないかもしれんけど、高知に行ってよかったという、この気持ちが非常に大きなものになりますので、大変ですけどぜひ、PRも含めて改善、充実をしていただきたいと思います。

もう一つ、渋滞対策等事業委託料ですが、何回か十分な渋滞対策がとれずに、たくさんの迷惑をこうむったときがあると思うんですけど。例えば今度の10月も8、9、10、土、日、月曜日は警備員を置いてくれていましたが、いないときがたくさんあるんですよ。そのときはやっぱり物すごく渋滞してまして。県だけじゃなくて、地元の市が全然対策をせんこともあったんで。本当に住んでいる人が通行するのも大変な状況があったりするんです。確かに予測、予想のこともありますけども、対策し過ぎるということはないので、やっぱり手抜きなく事前に。おいでないときもありますよね。そこら辺どんな判断でやっていますか。

◎山崎おもてなし課長 渋滞対策につきましては、先ほど申しあげましたように、ゴールデンウィークとかお盆、9月の連休などには、渋滞の予測される中心市街地に警備員を配置したり、また、今年度は特に外国クルーズ客船が、現在確定しているだけでも25隻来ますので。6月に初めてクァンタム・オブ・ザ・シーズが高知に寄港した際には、桂浜から高知市内の中心地にオプショナルツアーバスが100台来まして、また、県内の皆様は港に船を見に行かれたこともあり、大変渋滞をいたしました。その反省を踏まえまして、3,000人から4,000人の大型クルーズ客船が寄港するたびに、それぞれの渋滞対策をとる、駐車場だけではなく桂浜周辺でシャトルバスを出すなど、渋滞対策を現在講じているところでございます。

◎米田委員 大型クルーズ船もそうですし、昨年9月のシルバーウィーク、あのとき物すごいいね、十分な対応がとれなくて。大型クルーズ船だけでなく、ぜひ前もった手立てを十分対策していただきたいと思いますし、要請しておきたいと思っております。

◎橋本委員 国際観光受入環境整備事業費補助金の不用が多い理屈はよくわかりました。有利な条件の事業があつて、そちらにシフトしたということもありますし。一つ聞きたいんですが、Wi-Fi環境整備です。主要な観光施設、例えばホテルとかのWi-Fiの整備率はどれぐらいになっているのか。

◎山崎おもてなし課長 私どもが対象としておりますのが83施設ございまして、そのうち当該補助金を活用していますのは、27年度末は47カ所で56.6%でございましたが、今年度残りの分の整備を進めるように、現在取り組んでおるところでございます。

◎橋本委員 そしたら一応、今年度、83施設全てで整備できるという方向ですか。

◎山崎おもてなし課長 既に整備計画が上がってきておるところもございますけれども、まだちょっとちゅうちょされている市町村もあるのが現実ですので、83施設の残り全てをできるように、そこは市町村訪問などを重ねながら、補助金を活用した整備をしていただくよう、お願いをしていきたいと考えております。

◎橋本委員 施設はわかりましたけれども、宿泊所、ホテル関係はそういうデータはないですか。

◎山崎おもてなし課長 今ちょっと手元に、県内の宿泊施設全てのW i - F i 環境整備の率はございませんけれども、先ほど申しました国の受入環境整備の補助金が、さらに今年度、補正予算も組まれておりますので、その活用を促しながら整備を促進していきたいと考えております。

◎橋本委員 W i - F i については今の時代、必須のアイテムだと思っています。この制度について、一般のホテルの方々が知らない、そんなところがたくさんあると思いますので、ぜひとも周知をしっかりとさせていただいて、活用していただくように要請をしておきたいと思います。

◎金岡委員 W i - F i 環境を整えられたところの看板と、どこの施設にW i - F i 環境が整っているかが、今のところなかなかわかりにくい状況だと思うんですが、それはどのようにやるつもりですか。

◎山崎おもてなし課長 W i - F i 環境が整備された旅館、ホテル、観光施設について、表示がわかりづらいという御意見をいただきましたけれども、今後、W i - F i 環境が整備されているという周知をしていただくように、お願いしていきたいと考えております。

◎金岡委員 それはわかるんですが、看板が独自というか、自分でつくったような看板も掲げられておるので、これは一体何の看板かなというレベルのものが、たくさん見受けられます。それではなかなかわかりにくいんじゃないかなということ。それからいろいろ案内板がありますが、W i - F i を使えるとかいうことが、まだ表示されていないようなので、外国の方が来られても、それほどW i - F i 、パソコンを使うことは余りないようですけども、外国の方も非常に苦労されるんじゃないかなと。そこら辺は早目にやっていかなければいけないのかなと思います。いかがでしょう。もう1回。

◎山崎おもてなし課長 重ねてでお答えになってないかもしれませんが、いただきました御意見を踏まえまして、W i - F i 環境が整備してあることの表示をしていただくように、各観光施設、宿泊施設等にはお願いしてまいります。

◎弘田委員長 W i - F i の表示なんですけど、多分規格があると思います。例えばその規格をコピーなりして渡してあげたら、全体に通じると思いますので、ぜひその辺もよろしくをお願いします。

◎伊藤観光振興部長 多分、フリーで使えるW i - F i の統一の表示があります。ただ、

今ホテル旅館は、フリーで誰でも自由に使えるのではなくて、基本的には宿泊客に限定しています。部屋に入ってパスワードが出るみたいな状況になっていますので。そういったところでは、フリーでというような表示がなかなかないのが現状です。フリーで誰でも使わすかどうかは、やっぱり業者の判断も出てきますので、使わせていただけるところについては、ぜひそういった統一的な表示を、これから広くやっていっていただいて、県外、国外から来られた方が、高知県内でストレスなくW i - F i 接続ができる環境を準備して、そういった格好で取り組んでいきたいと思います。

◎西森副委員長 おもてなしトイレについて、先ほどの説明で728カ所が認定されているということですが、全てのトイレがおもてなしじゃないといけないんじゃないかという思いは持っているんですね。いわゆる観光地といわれるところのトイレがどれくらいあるのか、それと、その中でおもてなしトイレがどのくらいあるのか。先ほどの認定の720幾つというのは、例えばコンビニだとか、そういうところも全部含まれていると思いますけども、いわゆる観光地といわれるところの実態がどうなっているのか、ちょっと教えていただければと思います。

◎山崎おもてなし課長 おもてなしトイレにつきましては、大きく分けて公共施設と民間施設がございまして、例えば県内全域のコンビニのトイレとか、さまざまな普通の公衆的なトイレとか、そういう全体の数は把握しておりませんが、現在おもてなしトイレに認定されているものでは、公共施設が249カ所、民間では470数カ所で、民間の施設のほうをより認定させていただいている状況です。

◎西森副委員長 全てがやっぱりおもてなしじゃないといけないと思うんですね。そう考えたら、いわゆる観光地といわれるところのトイレがどれくらいあって、今どれくらいのトイレが整備されているのか、今後どれくらいを満足していただけるトイレにしていけないといけないのか、それにはどういった事業が使えるのか。やっぱりトイレがきれいだと気持ちがいいわけですので、ぜひそういうことを実際考えながら、進めていっていただきたいなと思うんですね。そうすると、タクシー・トイレ満足度調査委託業務というのは、そういった実態がどうなっているのか調査する業務ではないんですかね。

◎山崎おもてなし課長 トイレにつきましては、おもてなしトイレの状況を把握していただいているものでございます。おもてなしタクシーにつきましては、調査項目を定めまして、聞き取り調査、モニター調査をして、例えば運転手の接客態度とか安全運転の状況、そういうものを評価をしていただいております。モニター調査の中では、よい点ばかりではなくて改善点などの御意見もいただきますので、事業者にフィードバックして、運転手の接客マナーの向上に努めていただくようにしております。

◎西森副委員長 まあタクシーはいいんですけども、トイレは先ほど言いました、実態がどうなっているかを調査する委託ではなく、どこを認定するのかとか、認定後にちゃんと

維持されているのかという調査なんですかね。まあそれはそれでいいんですけども、先ほど言いましたように、全てをやっぱりおもてなしにしていくという思いを持ったときに、実態に対して今後どう整備をしていくのか。それは県が整備する部分じゃない部分も、市町村であったりそれぞれが整備していくことにはなつてこようかと思えますけども、まずやっぱり県として、全体で1回調べましょうよという投げかけを、県下の市町村、団体、そういうところにやってもらいたいなど。ぜひこれは、実態に対してどう改善をしていくのかに取り組んでいただきたいということを、意見として言わせていただければと思います。よろしくをお願いします。

◎上田（貢）委員 関連して。桂浜のトイレが和式ですよ。あれはちょっといかがなものかなと思うんですけど。これは高知市なので、さっきの御意見のように、そのところも県のほうからも高知市に言ってみてもらえたらと思うんですけどね。

◎山崎おもてなし課長 桂浜につきましては、現在整備計画を高知市のほうでやっておるところでございますので、駐車場とかトイレの改修なども、その整備計画の中にはあろうかと思えます。なお、いただきました御意見につきましては、高知市にお話をさせていただきたいと思えます。

◎西森副委員長 予算がね、国際観光の受入環境整備とは違う、もっと補助率のいいものを使ったということですけども、これも2分の1の補助でできるものが使えるのに、随分残っていることを考えると、まだまだやっぱり、トイレを本当に改修していこうという意識が、それぞれの地域でどうなんだろうかと感じますので、そこはぜひ取り組みを。それは、おもてなしトイレに認定する、しないは別にして、やっぱり気持ちよく使えるトイレを、県内各地でつくっていく意識も大事だと思いますので、よろしくをお願いします。

◎弘田委員長 質疑ございませんか。

（「なし」と言う者あり）

◎弘田委員長 ちょっと最後に、これは総務部長に言わんといかんことなんですけど。決算特別委員会をやってきて、単純な事務手続のミスが多かったです。皆さんは全て法律に基づいて仕事をされていますので、補助金でしたら交付要綱とか、そこを担当者がきちんと把握して仕事をしていれば、ここで部長が立って謝るようなことはなくなりますので、県全体の事務手続をもう一度見直して、きちんとするようにやっていただければと思います。きょうは最後ですから言わせていただきましたが、ぜひ部長のほうから、庁議とか全体にわかるような場で言っていただければ幸いです。

質疑を終わります。

以上で、おもてなし課を終わります。

これで、観光振興部を終わります。